

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7440-1
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/
発行人：稲松 義人
印刷所：聖隷サービス(有)
定 価：一部 30 円

2009年6月20日
第 314 号

家庭を支える 地域コミュニティ

理事長 稲松義人

子どもに限ったことではありませんが、家庭が、家族一人ひとりにとって安心できる居場所となり、命を分かち合っていることが実感できる場所であれば、たとえ物質的には豊かとは言えない暮らしであったとしても、それなりに幸せに生きていくことができると感じます。私たちに比べるにかなり貧しいと思われる国の人たちに会ったときに、その温かい表情や子どもたちの目の輝きに魅せられ、そのことをいつも教えられます。

逆に物質的に豊かで、自分の部屋があるとか、自分の欲しい物がほとんどそろえられていたとしても、一緒に生活をする家族の中で、自分の主体性が認められず、その一員として大切にされていると実感を得られなかったとしたら、それほど寂しく苦しいことはないに違いありません。家族が一緒にいてもそれぞれが自分勝手な生活としていたり、親が自分の思いを一方的に押し付けて子ども自身のことを分かっていないという家庭では、子どもは安心感を得られません。安心感を得られないところでは、子どもは屈託のないこともらしい笑顔を見せてくれません。

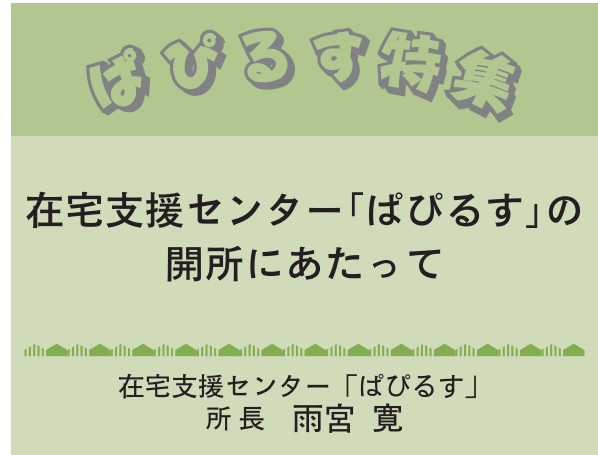
家庭において、子どもが健やかに育つための環境が保てないとしたら、家庭が健全を取り戻せるような周囲からのアプローチが必要だと思います。子どものことを決めるのは通常親であり、法的に親権が保障されているために、親自身がそのことを理解してくれないならば、福祉施設を利用するというような制度的なアプローチではなかなか難しいと感じています。虐待などのケースにおいては、強制的に子どもを家庭から引き離して保護することはありますが、家庭から引き離された子どもの心にも何がしかの傷が残りますし、養育者自身が反省し、それまでの態度を変えて再び子どもと一緒に過ごせるようになるためのプロセスを支援することは、かなり高度な専門性が必要になると感じます。

社会の中には、一人暮らしの人もいますし、家族の中でも、両親が共働きであるとか、家族の中で対立などから、自分自身の居場所(安心感)が脅かされる場面も少なくありません。家庭の中でどんなときでも一〇〇%の安心感を満たされることの方が一般的には少ないのではないのでしょうか。家庭の中で人間関係が崩れたときに、その家庭が閉鎖的であれば、なかなか関係修復のきっかけが見つかからないこともあるのではないかと思います。実際には多くの人が、家族以外のだ

れか、親戚のお姉さんであったり、近所のおばちゃんであったり、会社の先輩であったり、学生時代の友だちであったり、様々な人に囲まれ、支えられて生きてきたのではないのでしょうか。

私は、子どもの頃から両親に連れられて(キリスト教の)教会に行っていました。今振り返ると、両親だけではなく、教会という家族を包括する人間関係の中で、様々な人たちに育まれて成長させてもらったように思います。教会をヒントに考えると、たまたま出会ったプライベートな関係だけではなく、家族ごと包括されるような集団(人間関係の中)に居場所をもつことは、共に支えあう社会を形成するため大切なことではないのでしょうか。

しかし、家庭もまた、その主体性(その家族らしさ)が認められなければならぬでしょう。その上で家族を包括するコミュニティの中で大切にされていることが感じられなければならぬと思います。干渉的で支配的な、過去にはありがかった近隣コミュニティではなく、市民として対等の関係の中で関わっていきける身近なコミュニティの再生が求められているのではないかと思います。これは、社会福祉の専門家とされる人たちだけが考えることではありません。そこに生きる人たち自身が、自分たちのこととして、様々なあり方を創造していくことが求められているのだと思います。



「ばびるす」の名称について

平成二十一年六月一日在宅支援センター「ばびるす」を開所しました。ばびるすの施設名称は、聖書の出エジプト記に由来します。そもそもパピルスは、アフリカ大陸に生息する繊維質の多い葦科の植物の名前です。古代エジプトにおいては、紙の原料やかごを編む材料として用いられていたようです。古代エジプトにおいて、異民族の子として生まれた十戒で有名なモーセは、人口増加による反乱をおそれたエジプト王の異民族対策のために、命の危険にさらされます。母親は、幼いモーセの命を救うために、パピルスで編んだ籠にアスファルトを塗りナイル川のほとりの葦の茂みにおいたそうです。そこへたまたま水浴びのために現れたエジプト王女に救われ、実の母親を乳母として王室で育てられることになりました。その後、成長したモーセは、苦難にあっていた同胞をエジプトから解放しカナンの地へ導くことになります。幼いモーセを守った、パピルスの籠のような存在になること、人生を川として表現される方もいますが、紆余曲折の人生を生きていくために、時として起こる困難を支える場所になりたい、そんな願いからこの名前を付けました。ばびるすは、平仮名で表記しますが、子どもにも分かりやすく、かわいらしく優しい感じにしました。

「ばびるす」の目指すもの

子どもを取り巻く社会環境が悪化していることが問題になる昨今ですが、その中で子どもの育ちにまず必要なことは、安心感のある暮らしだと考えています。また、このことは、障がいのある子どもたちやその家庭にとって、より必要とされることではないかと感じています。子どもや高齢者等いわゆる社会的弱者といわれる人たちも安心して暮らせる社会が望まれています。理事長がつのぶえの中で、再三、訴えてこられているコミュニティーの再生という社会の大きな課題ともつながるものだと感じています。ばびるすも地

域で、その一つの在り方を模索していきたいと考えています。

在宅支援センターばびるすは、就学前幼児の児童デイサービス、就学児の放課後児童会、障害者相談支援事業所を併せ持つ施設です。幼児を含め障がいのある子どもたちの育ちと、家族の支援を継続的に行える場所にしたいと考えています。

在宅支援センターと敢えて名称に加えました。児童に特化した支援を行う場所として考えれば児童支援センターでもよいところですが、少しこだわらせてもらいました。子どもの育ちを支援することは、イコール親あるいは家庭支援であると考えています。子どもにとって基本的に安心できる場合は、家庭であってほしいと願っているからです。子どもにとって親や家庭が安心で



きる存在、場所であれば、子どもは、自信をもって人とかかわりや社会生活をしていくことができると考えます。相談を受ける中で、子どもが不安定な状況にある時、同様に親や家庭が不安を抱えている場合があります。施設や学校、社会の中で少々困難なことがあっても、どっしりと受け止めてくれる存在や場所があることで子どもは、困難を乗り越えたくましく育っていきけるようになるのだと思います。

知的障がいのある幼児の支援を保育や幼児教育ではなく療育といいます。トイレや着替えなど日常の生活動作の確立や集団への適応訓練などがよくいわれるところです。このことは、子どもの自立や生きていく上で、とても大切なことであることは、言うまでもないことです。しかし、身の回りのことが自立できていても、通所先のグループで適応ができるようになっても、芯であるところの心の安定や成長（たくましさ）がなければ、後々問題が起きることが往々にしてあることを、施設支援や相談支援の現場で感じてきました。この心を育む療育に欠かせないものが、親として家庭が安心できる場であることだと考えます。そのためのお手伝いをばびるすでやれないだろうか、そんな思いから「在宅支援センター」を名称に加えました。在宅の意味するところは、親であり家庭ということです。

ライフステージに沿った支援

障がいのある子どもたちの支援において、継続性がないことも気になっています。ライフステージにおいて入学や卒業、就職など節目があることは、誰しも同じことです。自分で選択できないことを伝えることのできる子どもであれば、問題も少なく通り過ぎていく過程なのかもしれません。しかし、知的障がいや発達に障がいのある子どもたちは、環境や状況の変化にとっても弱く繊細な部分が見られます。状況の変化を理解し慣れるまでも時間がかかります。ぱびるすは、幼児期から児童期のライフステージに継続的な支援を行うことができます。何か問題が起こった時に、すぐに寄り添った支援ができる場所でありたいと思っています。また、困難を乗り越えることができる子どもにも、関わる人皆が支えていけたらと思います。ライフステージに沿った支援を展開していくことは、小羊学園の方針としていくところでもあります。ぱびるすは、小羊学園として浜松地区で初めての幼児の通所施設になります。幼児から大人まで、何がしかの形で支援を行いつなげていける小羊学園になりました。役割が広がることは、事業所にとって大変なことですが、必要性のあることに積極的に取り組んでいく小羊学園スピリットで頑張りたい

と思います。

ぱびるすは、これからのいろいろなことに協力してもらいながら、障がいのある子どもたちを守るしっかりした籠を編んでいきたいと思っています。籠を編むパピルス(葦)の一本一本は、協力して下さる関係機関であり、家族であり、協力者一人一人です。支援する保育者や支援員は、アスファルトを塗って籠を強くしてくれることと思います。安心して人生という川に親子でこぎ出していきけるようサポートしていきたいと思っています。激流や岩盤があるかもしれません。その時には、いつも川沿いで見守り応援し危険な時には、すぐに助け船が出せる、ぱびるすがあることを思い出してもらいたいと思います。



ぱびるすの支援内容

前述しましたが、ぱびるすは、就学前の幼児(定員10名)と就学児童(定員15名)を受け入れることができます。幼児については、これから少しずつ利用者を増やしていきたいと考えています。就学児童については、特別支援学校はもちろん、一般の放課後児童会の利用が困難な特別支援学級の子どもたちも、対象としていきたいです。

児童デイサービスは、個別療育、グループ療育を子どもたちの特性や発達段階に合わせながら行っていきます。親子参加型のプログラムも考えていきたいと思っています。その他、季節に応じた行事や遠足、発表会、地域の幼稚園や学校、お年寄りなどとの交流も進めていけると良いと思っています。

放課後児童会は、学校帰りの楽しいたまり場になりたいと思います。宿題のある子どもたちは、別室でお勉強をすることもできます。ぱびるすには、園庭はありませんが、近くに大きな公園がいくつもあります。時には、みんなで出かけておもしろい遊びことも計画していきたいと思っています。

相談支援事業所は、家庭で困ったことがあれば、他の福祉サービスの利用や家庭での過ごし方などについてアドバイスを行います。ぱびるす以外の教

育機関、福祉機関、医療機関、役所等とも連携しながら家庭を支える方法を考えていきます。

まだまだ、始まったばかりの施設で、思いばかりが先行してしまっていますが、これらの内容の支援を少しずつ進めていきたいと考えています。

「小さく弱いものが滅びることは、神の御心ではない」障がいのある子どもを含め、誰もが安心して暮らせる社会を望みます。ぱびるすの小さな働きがその一助になることができるように、励んでいきたいと思っています。小羊学園を応援して下さい。皆様にも覚えていただき、新しい働きにご協力いただけましたら幸いです。在宅支援センター「ぱびるす」をよろしく願います。



在宅支援センター ぱびるす

開所式が
行われました

六月一日(月)午前十時三十分から、在宅支援センターぱびるすの開所式が行われました。当日は晴天に恵まれ、新しい事業の始まりに相応しい日和となりました。開所式には、土地をご提供くださった細田様はじめ、設計・施工業者様、また福祉関係者・行政関係者様が出席下さり、法人関係者を含め総勢四〇名程で記念礼拝が行われました。記念礼拝では、森田恭一郎遠州栄光教会牧師が施設名である「ぱびるす」の聖書における意味、また小羊学園の理念である「百匹の小羊」について、判りやすく説教していただきました。さらに説教の中で雨宮所長の「ぱびるす」への想いも紹介頂き、ぱびるすが実施しようとしている事業の大切さをひしひしと感じることができました。礼拝後には、開所に当たってご協力頂いた関係者の皆様に感謝状を贈呈させて頂き、土地を提供下さった細田様から、「主の導きによってこの事業が成されたことを喜び感謝します」とお話しいただき感銘を受けました。その後、稲松理事長・雨宮所長からご出席下さった皆様にお礼の挨拶や、直接支援に携わる職員の紹介をもって、開所式を無事終えることができました。

ぱびるすの開所によって、障がいを持った方々のライフステージに沿った支援が一環して法人内で行うことが可能となりました。ぱびるすはその中でも、最初に携わる支援です。お子さんが家庭・地域の中で過されるための療育支援であったり、障がいの受容に戸惑いや将来に不安を抱える保護者の支援をしていく中で、お子さん・保護者ともに家庭で安心して暮らしていただけるようになることを期待しています。



小羊学園 創立当初の写真集

(福)小羊学園のホームページに掲載

昭和四十四年に発刊された、「小羊学園」写真集をホームページに掲載しました。開設当初の子供たちや職員の様子が載っています。つづのぶえの紙面でも今後特集を組む予定であります。HPアドレスは、巻頭をご覧ください。

つばさ静岡・看護師募集

静岡市にある重症心身障害児施設「つばさ静岡」では、引き続き看護師を募集しています。心身に重い障害があり医療的なケアの必要な人たちのための施設で、看護師の配置はより良い支援のために欠かすことができません。

▼連絡先 つばさ静岡
TEL (054) 249-2830

絵本や玩具 ※ 求めています!

(福)小羊学園では、「トルチェ」・わかな・ぱびるすの三事業所で障がいのある子どもたちの放課後支援を行っています。ぱびるすは就学前の児童デイサービスも実施します。

子育てを終えられて、不要になられた絵本・玩具・幼児教材等、「ご自宅」で眠っているものがありましたら、ご寄付下さい。

▼連絡先 代表 ぱびるす
TEL (054) 414-1662
浜松市中区高丘北三丁目三八七



小羊学園を支える会

三方原スクエアの建設には多くの方がご協力くださいました。心から感謝申し上げます。

2009年度寄付金報告

5月受付分 467,473円 (30件)
累計 984,023円

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。

下記へご連絡ください。

三方原スクエア ☎053-414-1833

編集後記

六月号から、つづのぶえの編集を任されることになりました。「つづのぶえ」の意を今一度噛み締めて、障害者福祉の情勢や、小羊学園の理念、キリスト教と社会福祉事業等々の情報発信をしていきたいと思っております。また各施設のトピックスなどできるだけ分けやすい紙面作りを目指したいと思っております。新米編集者ですので、至らない部分も多々あるかと思っております。ご愛読いただいております皆様の率直な意見をお聞かせいただき、今後の紙面作成に反映できればと思っております。少しづつ暑さが増しております。皆さままお身体ご自愛下さい。(F)